

[015] 語文研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/10255>

出版情報：語文研究. 15, 1962-12-31. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

語文研究所載論文一覽

第一号〔昭和26・3〕

藤村とシエイクスピア 笹淵友一 芭蕉と自然 森山 隆

興福寺本靈異記訓釈考 平井秀文 一つの手がかりをもとに 大内初夫

万葉植物の様相 永井 寛 九州野坡門の研究 大内初夫

平仲説話の展開と平仲物語 目加田 さくを 一その形成の時代 久

浄瑠璃の一限界 横山 正 「天霧之」の訓について 鶴 吉

形容詞を構成する一二の接尾語について 秋山 正次 現代語「からに」について 東 秀吉

去來の一句の解釈 橋本 元二郎 徒然草第五十六段末尾の解釈 日和男

伝中御門宣秀筆金葉和歌集 石井 和男 一ざえある人はその事 杉浦 正一郎

書評 芭蕉連句評釈(一) 一「うぐひすに」の卷(上) 一 (品 切)

笹淵友一著「北村透谷」 重松 泰雄

高木市之助著「湖畔」を繞む立川 昭二郎

(品 切)

第三号〔昭和30・11〕

第二号〔昭和30・5〕

人麻呂長歌の修辭研究 岡本 庸子 倭建の命は天皇か 福田 良輔

古事記の用字法に即して 一

落窪物語の笑ひ 大原 一輝
 仏教的と非仏教的 井手 恒雄
 一今日平家物語をどう続ひべきかの問題に
 關連して 一

近松の姦通浄瑠璃 横山 正

あゆひ抄の「立居」と「本」 佐田 智明

徳富蘆花と社会主義 寺園 司

芭蕉連句評釈(一) 杉浦 正一郎

一「うぐひすに」の卷(下) 一 (送料共二〇〇円)

第四・五号〔昭和31・10〕

開講三十周年記念特輯

国語の母音同化 春日 政治

あの頃 高木市之助

小宮氏本新古今集その他 小島 吉雄

女にて見奉らまほし 笹淵友一

五七調の成立について 瀬古 確

九州西南部方言における長母音について 上村 孝二

「浜風爾……紐吹返」考 黒岩 駒男

成實堂文庫本・遊仙窟について 平井 秀文

「あはれ」の再検討 井手 恒雄

―中世歌僧の論を兼ねて―

世話淨瑠璃表現と芸風 横山 正

「現代かなずかい」私案 矢野 文博

純本作家の構成能力の問題 目加田 さくを

―桜姫全伝原草紙をよすがとして山東京伝

の場合―

芭蕉と寿貞・次郎兵衛 大内 初夫

万葉集における語・告・謂・言の訓鶴 久

―表記意識と用字法との関連において―

「邪宗門」の南蛮詩と李太郎重 松 泰雄

元永本古今和歌集の書写に関する一問題

春日 和男

志賀白水郎歌十首の歌謡性 福田 良輔

―憶良の単独創作説を疑ふ―

(送料共二二〇円)

―助動詞の用法から― 達藤 康子

中世歌学書に見える言語意識の性格

佐田 智明

上代における母音音節の脱落について

森山 隆

二葉亭四迷の現実意識

立川 昭二郎

狭衣の道心

大原 一輝

心敬と自然美

井手 恒雄

―彼の反仏教的発想への理解の試み―

万葉集における有情とその存在の表現

―「るる」「をる」を中心として―

(送料共二二〇円)

杉浦正一郎著「芭蕉研究」

重松 泰雄

細川文庫目録

大内 初夫

(品 切)

第九号〔昭34・9〕

宝曆明和の大坂騒壇

―列仙伝の人々―

旅人の表現

―特にその孤独をめぐって―

風土と用字

―上代における「湖」について―

いわゆる説話文学の文学的価値

井手 恒雄

蕉風俳諧美の理念についての一考察

―さび・しをり・細みについて―

露伴と鷗外

―観画談と寒山拾得―

漱石における自然

語彙「肥前から薩摩へ」

―

立川 昭二郎

上村 孝二

第六・七号〔昭32・12〕

故杉浦正一郎教授追悼号

故杉浦教授追悼号によせて 福田 良輔

俳人諸凡尼の生涯

―なみ女の頃―

「おくのほそ道」板行以前の反響

―影響史の序説― 大内 初夫

伊勢物語の章段配列に関する一考察

白 石 梯 三

春日 政治

野村望東尼全集を読む

春 日 政 治

笹淵友一著「浪漫主義文学の誕生」

春 日 政 治

書 評

春 日 政 治

(送料共二二〇円)

春日政治博士八十賀記念訓点特集

高野山「和泉往来」について 遠藤 嘉基

平安朝初期の訓点語に用ゐられたスラとダニ

トキとトキニの訓点 中田 祝夫

漢文訓読語に於ける係助詞に就いて

築島 裕

遊仙窟「菅家本」考 平井 秀文

カクノゴトシといふ熟語の訓読性

―訓点語と今昔物語集の用側二三―

春日 和男

(送料共一七〇円)

第十一号(昭35・9)

源氏物語奥入の成立について今 井源 衛

―待井説に賛成する―

花山院の「花見る人」の歌 井手 恒雄

―日本文芸史における無常観の克服・補遺―

沽徳年譜追考・京極高住の俳諧について

白石 悌三

人麻呂歌集訓話二題 鶴 久

日本靈異記の「所」字について

上代におけるカ行音の清濁表記について

原口 裕

書評

井手恒雄著「日本文芸史における無常観の克服」

服 今井源 衛

(品切)

第十二号(昭36・4)

万葉集に於ける雑歌の表現 瀬古 確

柘枝伝考

―「辨篇突集」について 大内 初夫

―「旅寝論」の一異本―

「千曲川のスケッチ」文体試論

重松 泰雄

小林秀雄とベルグソン

―「近代絵画」を中心として― 瀬里 広明

近世初期儒学者の言語観 佐田 智明

―テニヲハ観との関連において―

紹介

大内・飯野・阿部編「湖白庵諸九尼全集」

白石 悌三

(品切)

物語と小説についての覚え書 椎淵 友一

とりかへばや物語の世界 大原 一輝

平家物語覚一本とその伝承 笠 栄治

海音関係丸本の奥書とその意義

横山 正

万葉集の枕詞「霞零」「丸雪降」はアラレ

フリカアラレフルか 福田 良輔

紹介

中村幸彦著「近世作家研究」白石 悌三

中村幸彦著「近世小説史の研究」

田中道 雄

(送料共一七〇円)

第十四号(昭37・5)

連濁―上代語における― 森山 隆

松平文庫本蜻蛉日記について 西丸 妙子

芭蕉の発句推敲覚書 石川 八朗

翻刻「西俗湖月抄 草案」 田中道 雄

(送料共一七〇円)